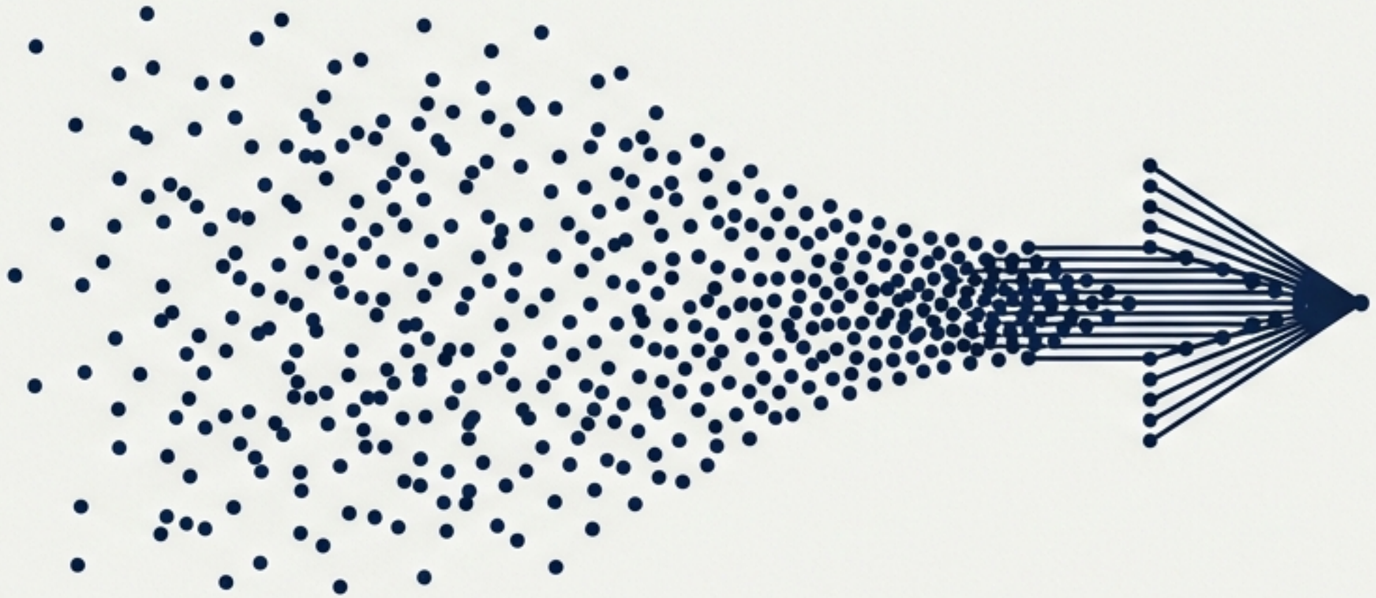
ケース会議の回し方改革

「報告会」から「意思決定の場」へ。多職種連携を成果に変えるファシリテーション技術



FOR SUPPORT STAFF / SERVICE MANAGEMENT MANAGERS / ADMINISTRATORS

NotebookLM

良い会議は「話し合う」ことではなく「決める」ことで定義される



現状の課題

- 会議が単なる情報共有で終わる
- 結論が曖昧で、支援行動が変わらない
- 毎週、同じ議題が再燃する



解決策：4ステップ思考

- 「事実」と「解釈」を構造的に分離
- クロージング（誰が/いつ/確認日）の標準化
- 進行役による交通整理



導入効果

決定事項実行率 > 90%

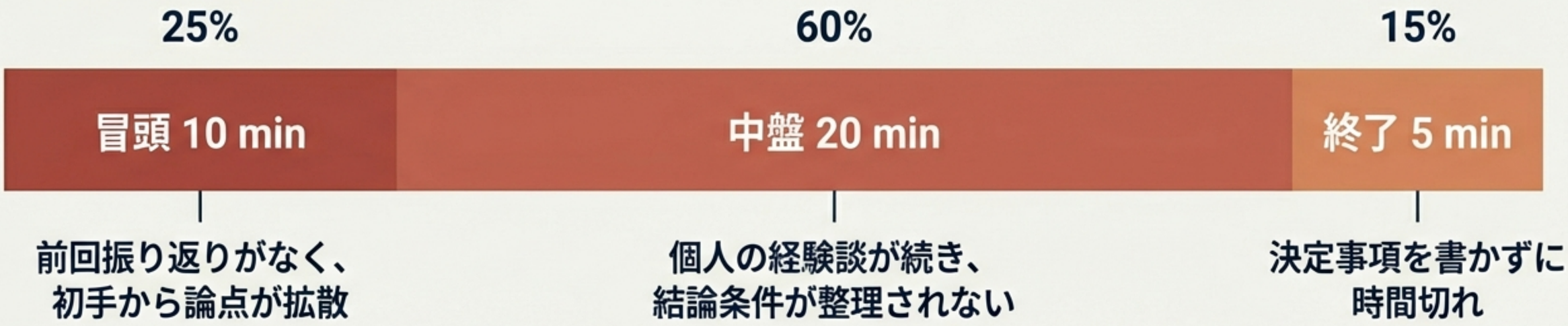
再燃議題率 < 20%

会議時間の短縮

NotebookLM

なぜ、毎週同じ利用者の課題を話し合ってしまうのか？

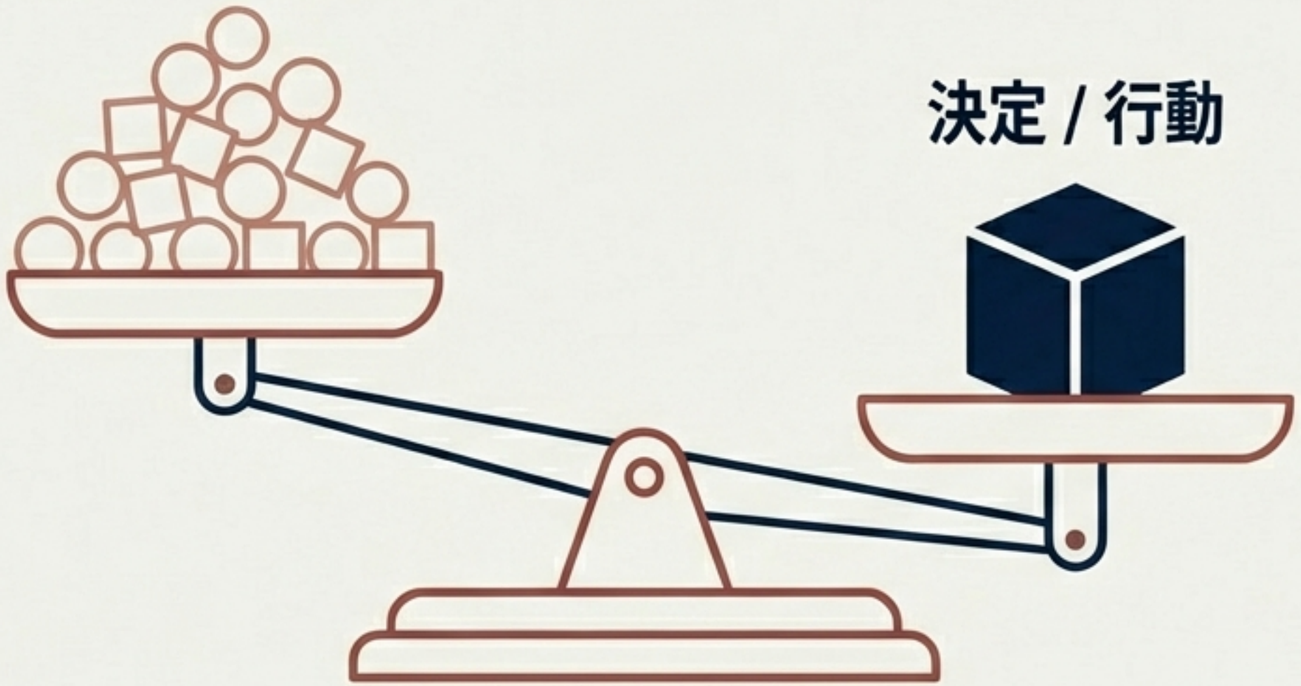
失敗する会議の解剖図



核心的課題：情報は共有されたが、「誰がいつ何をするか」が決まっていない
結果：翌週も同じ議題が再燃し、スタッフの疲労感が増大する

NotebookLM

多職種連携の価値は、意見の量ではなく「行動の決定」にある



The Goal

ケース会議は「おしゃべり」の場ではなく、「意思決定プロセス」である。

The Rule

主観的な「事実」と客観的な「解釈」を明確に分ける。

The Output

全ての会議は、具体的な「次の支援アクション」で終わらなければならない。

「支援計画が変わらなければ、その会議時間は投資ではなくコストである」

NotebookLM

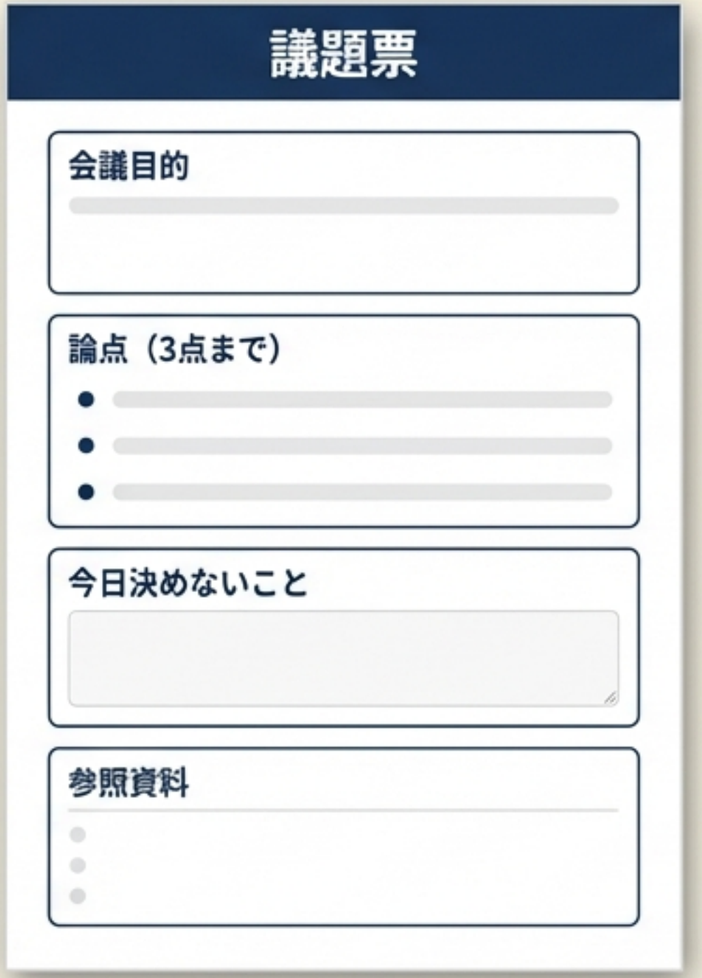
議論を成果に変える「4ステップ・スタンダード」



※ 進行役は、この境界線を守らせる。「事実」から「解釈」を経ずに「意思決定」へ飛躍してはならない。

NotebookLM

会議の成否は、開始前の「論点絞り込み」で決まる



事前設計の3つのルール

1. 論点は3つまで

全てを解決しようとしない。最も緊急度の高い3点に絞る。

2. 「決めないこと」の定義

議論の拡散を防ぐため、今日のスコープ外であることを明記する。

3. 根拠資料の準備

モニタリング記録、面談メモ、事故報告書を手元に用意する。

NotebookLM

進行役の役割は、発言を促すことではなく「交通整理」

フェーズの切り替えを宣言する

Step 1
(事実フェーズ)

「今は事実整理の時間です。意見は後で伺います。」

「事実確認は終わりました。ここから対応案に移ります。」

Step 2
(解釈フェーズ)

「それは事実ですか？それとも意見ですか？」

重要：事実と意見の混在を止める。
意見が事実のように語られた時、進行役は必ず一時停止し、ラベルを貼り直す必要がある。

NotebookLM

決定事項は「4つの要素」が揃わなければ、実行されない



1. 決定事項
（具体的なアクション）



2. 担当者
（誰が責任を持つか）



3. 実施期限
（いつまでにやるか）

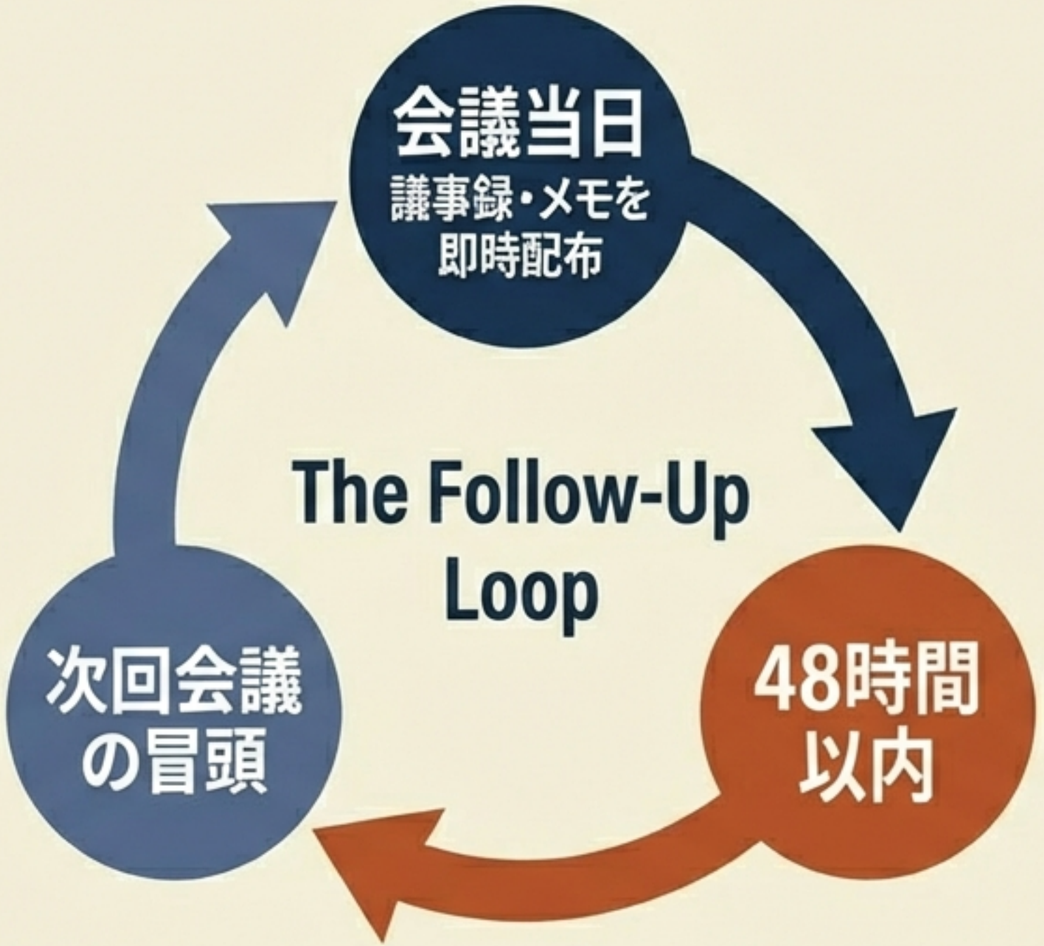


4. 効果確認日
（いつ振り返るか）

警告：「みんなでやる」は「誰もやらない」と同義である。**必ず個人名を指名する。**

NotebookLM

「会議後48時間」のフォローが、実行率を90%に引き上げる



次回会議の冒頭
前回の決定事項の
進捗レビュー

48時間以内
担当スタッフへの
個別声かけ・確認

決定事項をやりっぱなしにせず、次回の入り口で必ず回収することで、組織に「実行文化」が定着する。

NotebookLM

事例：E事業所における「再燃議題」の撲滅

改善前	改善後
• 毎週会議を行うが、同じ話題が繰り返される • 長時間拘束によるスタッフの疲弊 • 「共有」だけで満足してしまう	• 論点を3つに絞り込み • 進行役と書記を分離 • 「次回確認日」の設定を義務化

成果：会議時間の短縮
決定事項実行率の向上
再燃議題（同じ問題の蒸し返し）の激減

NotebookLM

会議の品質を数値で管理する「3つのKPI」

決定事項実行率

Target

>90%

期限内に実行された
決定事項の割合

再燃議題率

Target

<20%

未解決で再提出された
同一議題の割合

会議時間遵守率

Target

>85%

予定時間内に終了した
会議の割合

NotebookLM

現場で起きる「よくある失敗」と回避策

声の大きい人の意見に引きずられる	進行役は「人」ではなく「論点」に時間を割り振る。
「正解」を探して議論が停滞する	正解などない。探すべきは「次に試す案（Next Trial）」である。
意見が対立して進まない	「事実確認」に戻る。対立の多くは、見ている事実（前提）のズレから生じる。

NotebookLM

次回の会議から使える品質チェックリスト

- ☐ 会議の**目的**は事前に**共有**されているか？
- ☐ 論点は**3つ以内**に絞られているか？
- ☐ **事実**と**解釈**を区別して議論しているか？
- ☐ 決定事項に**「担当者」**と**「期限」**がついているか？
- ☐ **「次回確認日」**は設定されているか？

Reference: 障害者総合支援法 / 指定障害福祉サービス運営基準 (Proper record keeping is a legal requirement).

進行設計が結果を決める。

NotebookLM